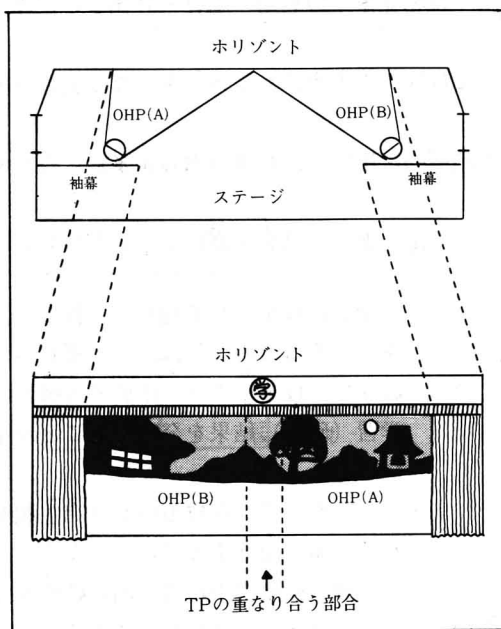


② 幕間の児童生徒管理のためのOHPの利用

幕のしまっているときの児童生徒管理は、教師の大切な指導の時間である。このようなとき、歌やゲームをTPに描いておいて、適宜進行係に投映させながら、児童生徒を静かに待たせておくようにさせるのも、OHPの効果的な利用のしかたのひとつである。

歌のときにはメロディーを、ゲームのときにはそれにふさわしい歌を、テープに吹き込んで再生して会場に流すようにすれば、いっそう楽しいふんい気になるだろう。

〔③の説明図〕



③ ステージの効果的活用のためのOHPの利用

学校では、スポットライトの利用はしているが、「 horizont 」(舞台の背景にあたる壁面)の照明は、あまり使われていない。

そこで、この「 horizont 」に舞台の両袖から、2台のOHPを使って、バック・デザインを投映する方法がある。

夕焼け雲、入道雲、結晶体もよう、その他墨絵などの幻想的なもようを表わすことができる。

また、「偏光タック」や「偏光シート」を使って、流動表示をすることも可能である。

場面転換のためには、2台のOHPのそれぞれを異なった場面とするようにTPを準備し、交互にスイッチを入れて使用することもできる。

注意すべきことは、提示者が姿を見せないようにすること、OHPと horizont が平行にならないので、やや映像にゆがみがでることである。この場合、ステージ上の垂れ幕を利用して、映像の輪郭の上方のゆがみをかくすようにしたい。また、それぞれのOHPからの映像がうまく合わさるように、TPに重なり合う部分をつくっておいてOHPの調整をする必要がある。